

令和4年度 学校自己評価

上田市立武石小学校

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価
だれにもやさしく げんきよく しっかり学ぶ武石の子	学び合い高め合う子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、元気に学校生活を送っている児童が多い。 ・学年関係なく、仲良く遊んだり、教え合ったりする姿が見られる。 ・グループ活動や話し合い活動を通して、意見を言い合ったり、ICT 機器を活用したりし、学び合いの場面を設定した。 ・学校行事において、子どもたちの支え合い、学び合いの場面を多く見ることができた。 ・音楽会、運動会から、元気な中にも、課題に真剣に取り組む姿が見られた。(学校運営委員の方より)

今年度の 重点目標	「良いところ見つけ・生活を整える・自ら考え、伝える」			
重点目標	成果と課題	総合評価	改善策・向上策	学校関係者評価
重点1 豊かな人間性 自分の良さと共に、 友だちの良さを認められる	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や1日の振り返りの場面で、友だちや自分の頑張ったところを見つけ、伝えることができた。 ・友だちに優しく声がけをしたり、個の良さを認めることができたりする児童がいる。 ・学級の中で子どもたちが友だちのイライラを上手にいなして前向きに進もうとする姿が多く見られた。 ・自分本位になってしまう児童も見られる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の振り返りの時間の確保が難しいが、計画的に確保したい。 ・自己評価、相互評価の行い方について、考えたい。 ・あらゆる場面で、自己肯定感を高めさせるとともに、思いやりの心の教育にも力を入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にて以前のような活動ができないか、行動制限の中でも工夫して体を動かすことをされていると思う。 ・子どもたちが体を使って運動や遊びができるよう、今後でもできるだけ時間を取っていただきたい。 ・登校時など、頭を下げて挨拶をしてくれる。今後も、地域の方への感謝の気持ちを忘れず、誰にでも挨拶をする指導をお願いしたい。 ・南部支会の学校間交流を大切にしてほしい。
重点2 健康・体力 生き生きと活動できる子	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業で学んだ運動を、休み時間等に遊ぶ姿が見られた。 ・休み時間等、元気に遊ぶ児童の姿が見られる。 ・地域力を生かした活動では、のびのびと子どもらしく取り組むことができています。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が苦手な児童への支援方法を考えたい。 ・なかよしタイムやクラスレクなど、児童が積極的に体を動かす活動を今後も仕組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練馬区の施設を活用した修学旅行、また、練馬区の小学生との田植えや稲刈り等の交流など、特色ある教育活動として歴史を創ってきたことを踏まえ、今後共継続していくことを望む。 ・少人数のよさを十分に生かし、自分の意見を発表できるよう、授業改善、学級経営、人間関係の改善を図ってほしい。 ・また、ICT を活用し、意見発表の工夫のしていただきたい。
重点3 資質・能力の育成 課題に向かって粘り強く考え、 伝え、解決できる子	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援をしていくことで、最後まで頑張ろうとする子どもの育成に繋がった。 ・個に合った課題や、少し頑張ったらできそうな課題を提示することで、やる気と最後までやり抜く気持ちを持たせることができた。 ・ねらいを明確にし、見通しを持ってから活動することにより、自主的に活動する姿が見られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・その子に合わせた課題を提示したり、課題をクリアする楽しさを感じられたりする問題を考える。 ・基礎基本の確実な定着のために、家庭学習の工夫、ICT 機器の効果的な活用を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、小規模校ならではの、体験学習を大切にしてほしい。 ・相談時間、担任の先生以外と相談できる体制を整えてほしい。 ・人権同和教育についての評価欄を設定することで、同和問題に対する職員の意識の高揚を期待する。また、学習の中に教材を組み込んでいただきたい。 ・武石地域ならではの純粋な心の児童の「他人を思いやる」心を忘れないでほしい。

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題				改善策・向上策			
			A	B	C	D	A	B	C	D
教育指導	教科	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち同士で「分からない」を考え、教え合う場面が見られた。 ・子どもたちが ICT 機器を使う場面を作ることができなかった。 ・クローズドブックを活用し、発表できるようになった。 ・少人数を生かし、互いがリラックスして語り合う授業展開を図れた。 ・授業に向かう姿勢の見直しを行った。 ・形だけの対話活動になってしまっている部分が多い。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ICT の効果的な活用場面を今後も検討していく。 ・主体的、対話的で深い学びを行う授業にするために、学習課題の設定が重要になる。職員研修を重ね、学び合う時間を確保する。 ・主体的、対話的で深い学びを実現するための手立てを、丁寧に仕組んでいく必要がある。 ・教師主導の一斉授業からの脱却、児童自身に対話活動の必要性を持たせるような課題設定を考えたい。 		
	活動	思考力・判断力・表現力を伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや具体的な手立てがわかる課題解決型の学習ができたか。 ・文字や言葉で表現する場を多く設定できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、必ずめあてを掲示するようにした。 ・モニターでの提示、手本の資料、板書の工夫など、視覚支援を心がけた。 ・毎時間の授業の流れ、やること、目標が分かる板書を心がけ、継続したことで、子どもたちも毎回その黒板を見て、1時間の流れを確認していた。 ・言葉で表現する場があるとき、ない時に偏ってしまったので、毎回少しずつでも設定していくことが課題。 ・めあてや具体的な手立てから、それが課題解決型の学習に繋がっていたかどうかは不十分な部分がある。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、ペア活動、グループワークなど、子ども同士が考えを深め合えるような活動を、毎時間少しでも取り入れたい。 ・学習課題やめあての設定の場面で、この時間でどんな力をつけさせたいのかを明確にする。 	
		家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「手引き」を活用し、家庭学習の充実がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に家庭への周知は行った。10月にたけしっ子学習週間の実施をし、家庭学習への意識を高める取り組みを行っている。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭、児童自身の家庭学習への意識、大切さを理解できていない部分が多いため、さらに周知が必要。 ・自主学習の取り組みについて、系統性を持たせた取り組みになるよう、職員間で共通理解を図っていく。 	
		南部支会の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・南部支会4校での児童生徒の交流が図れたか。 ・学年会・教科会等での学び合いができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の交流を行ったり、連絡を密にしたりしている。 ・小中交流や、音楽交流、遠隔授業、クリーン少年団をオンラインで実現できた。 ・遠隔授業と実態に合う交流、どちらも行うのは、日常的には少し難しかった。 ・他校の自主学習の取り組みを紹介し合うことで、お互いにより刺激になった。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの交流で、どのような場面や学習で交流ができるのか、アイデアを出し合いながら、増やしていきたい。 ・ICTを使った交流、実際に会って行う交流のそれぞれのメリットを考え、うまく使い分けていきたい。 	
特別活動	自発的・自主的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・認め合い、所属感のある学級活動がなされたか。 ・共生社会の担い手を育成する児童会活動がなされたか。 ・「個の確立」を図る学校行事や集会活動がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学級も元気に活動している。個を大切に、どの子にも自己肯定感を高める活動、声がけを全職員で積極的に行っている。 ・様々な理由で、思うように活動に参加できない児童もいるため、児童の心に寄り添いながら自主的に参加できる支援を考えていくことが課題。 ・児童会活動で、児童が主体的に計画をし、委員長を中心に話し合い、企画をすることができた。 ・全校が仲良くなる活動を多く取り入れている。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・教師が子どもを「認める」ことを意識してやってきたが、子どもたち同士で「認め合う」場面を、日常的に設けていきたい。 ・学級経営の見直し、子どもへの関わり方、見取り、声がけなど、教師同士が連携し、全職員で武の子どもたちを育てる意識をさらに高めたい。 ・全校での行事を大切に、集団(仲間意識)を大切にしたい。 		
道徳総合	心を耕し考えを広める時間の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究が十分できたか。 ・地域の素材を生かした学習ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連学年で米作りに取り組んだことにより、学年間交流ができた。地域の方とも交流できたりした。 ・特別老人ホームともしびに行き、人権の花を届けたり、演奏をしたりして、コロナ禍でもできる交流を行った。 ・目の前の子どもたちのことを考え、何に興味関心があるかを考えたり、子どもたちに合った授業展開を考えたりした。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちとの日常の何気ない会話も大切にし、何に興味があるのかを知り、教材研究に生かしていく。 ・行事が重なり、準備時間の確保が難しいため、計画的に進めていくことが必要。 ・場面に合わせた自分の立ち位置や、友だちへの思いやりなど、道徳教材で積極的に取り入れ、日常的な関わりの中でも 		

			が、上手くいかないこともあった。 ・学級ごとにその児童に合った教材での取り組みをしている。				意識させていく。
学 校 運 営	家庭・地域との連携	相談・支援体制 ・児童、保護者の声を大切にしながら相談を行い、支援につなげることができたか。	・外部関係機関と連携をし、登校渋りのある児童に、「不安を話せる」人を増やすことができた。 ・より学びやすい場を、保護者と連携して探ることができた。 ・ノートや日常的な連絡を密にし、相談できる雰囲気を作ることができた。 ・相談週間で担任と一人ひとりの児童と懇談を行った。子どもの悩みを知る良い機会となった。その子の悩みに対し、どんな支援がよいのか話し合うことができた。 ・保護者の悩みの声を聞き、支援につなげることができた。	○			・不登校傾向改善に向けて、今後も家庭、原級との連携を図っていく。 ・児童の悩みとご家庭での悩みを学校としてきちんと聞き、主訴をとらえたい。どんなことが問題になっているのか、全職員で共通理解し、職員全体で対応するようにしたい。
		情報発信 ・学校便り、学年便り、ホームページ等で学校の様子を伝えているか。	・学年だよりを通して、子どもたちの学校での様子を伝えることができた。 ・金管バンドだよりで、活動の様子を伝えることができた。 ・月一の学校だよりや週一回のHPの更新で校内の出来事を発信している。また、地域の力を借り、(丸子テレビ・佐藤新聞店さん)にお願いしている折り込み)できる限り、多くの情報を発信するようにしている。	○			・今後も、子どもたちの良い面が伝わるように、そして、意欲につながる内容を心がけたい。 ・これからも学校方針や多くのことを発信していく。
		地域から学ぶ・地域の教育力の活用 ・自然環境を生かした学びを進めたり、地域の教育力を活用したりすることができたか。	・上田市の支援事業にご協力いただき、芸術家を招いた講座を行うことができた。こういう機会を大事にしていきたい。 ・地域ボランティアの方々にも多くの協力をいただき、様々な活動をしている。地域力で多くの体験を行うことができている。地域ボランティアの力に感謝している。	○			・地域の方々の協力を得ながら、今後も積極的に連携し、活動していく。連携はしていくが、やっていただいていることを当たり前と思わずに感謝の気持ちを忘れないようにしたい。
	研修	授業力の向上 ・「みんながわかる・できる」授業実践のために、日々授業改善をし、研究会を通して学ぶことができたか。	・学びの基本姿勢(机上整理やチャイムスタート)を再確認し、全学年で取り組んだ。 ・授業力向上のため、お互いの授業を見合えるよう、職員同士で声をかけあい、学び合うことができた。 ・学力差の大きい中、みんなが分かる授業の実現のためには、どのようにしたらよいか、さらに考えていく必要がある。	○			・各学年の実践や、取り組みを紹介し合い、お互いに学び合う機会を多く取り入れていく。 ・子どもたちにどんな力をつけさせたいのか明確にし、それに向けた手立てを考えていく必要がある。
	組織	情報の共有・全職員による学び合い・支え合い ・教科指導や生徒指導などに関わる情報を共有し、チームで支援・指導にあたれているか。	・小さなことでも、連絡を密にし、報告するようにしている。多くの先生方が支援、指導してくれるのでありがたい。 ・原級、支援級と常に連絡を取り合いながら進めていけてよかった。 ・授業やそれ以外での子どもたちの様子を職員間で共有することや、相談することを積極的に行い、多くの職員の中で子どもたちを見ることができた。そして、自分自身も支えられた来たので、職員間のコミュニケーションを今後も続けていきたい。 ・学校全体で情報共有し、配慮を要する児童に対し、支援を続けている。連学年での支え合い、特別支援学級との連携を大切にしている。	○			・今後も、職員間で情報共有し、全職員で子どもたちを見ていく。 ・定例の学年会を中心に、職員間のコミュニケーションを大切にしていける。

A…達成された B…ある程度達成 C…あまり達成されていない D…達成されていない